

2025 年 12 月号

<https://dappe.com>

mail:dappepc@gmail.com

担当部署：JA水郷つくば営農部

営農企画課

土浦市田中1-1-4

電話 029-823-7001



みなさん、こんにちは。

いつも会の運営にご理解とご協力をいただき、  
誠にありがとうございます。

今年も残すところ一ヶ月たらずとなりました。

あっという間に一年が過ぎますね。

### 特集 「令和の米騒動」と今後の対応

歴史的な「米騒動」(大正時代に起きた民衆騒動)と  
比較して、現在の農業政策や社会構造の問題が浮  
き彫りになったことから、「令和の米騒動」と呼ばれ  
るようになりました。

その複数の要因と就農者として感じたことについて、  
下記しました。

#### 1. 異常気象による「不作」と品質悪化

##### 1).最大の要因は 2023 年の異常気象

記録的 猛暑に見舞われ、特に 7～9 月の高温が水  
稲の登熟に大きな悪影響を及ぼしました。

更に台風や局地的な豪雨も発生し、水害や倒伏が  
発生した地域も多く、「作柄不良」と全国的に判定さ  
れました。

なかでも被害が大きいのは、ブランド米の「コシヒカ  
リ」などの高品質種で、高温の気象条件に適さず品  
質低下に至りました。

・1等米の割合が急減。

茨城県コシヒカリ 5 年度 46.2%。平年 75.3%。

・2等米3等米が増えて業務米に回る。

・同じ5kg でも味・見た目等ばらつく。

上記の影響から市場では「品質の良い米」が足りな  
い状況になる。

#### 2).色彩選別機の導入による品質向上

・カメムシ大量発生対策として粃摺時に除去装置を  
取付、品質対策を進める。

#### 3).精米時の歩留も低下

・形質的に腹白や背白が増え簡単に削れ、ヌカが多  
くなり白米が減少し歩留低下。

#### 4).河川揚水の水温上昇

・登熟期間の水温が以前より上昇し、形質的に白未  
熟粒が多くなる要因とされる。

#### 5).必要な米の量が不足

・JAに米が集まらず買入減少、民間の在庫減少か  
ら流通段階での競争が激化に至った。

### 2. 農業政策の減反政策と高齢化が招いた“脆弱な 供給体制”

#### 1).国の作況指数…生産量把握

・2024⇒101…769 万トン。平年並みのはず

#### (1).玄米を選別する「目幅」ふるいが違う

	国	農家A	農家B
目 幅	1.70mm	1.80mm	1.85mm
全 国	0.3%	24.7%	38.5%
関 東	0.6%	44.5%	46.8%

※国が『10a 当りの収量』を算出するための使用する  
ふるいの「目幅」と農家が使用する玄米を選別す  
るふるいの「目幅」が違う。

- ・…上記数値から実際には目減りしている。
- ・豊作の実感がないのに数字上は豊作に
- ・昨年の実感作況指数は、90程度

## 2).減反政策とは

- ・お米を作りすぎると価格が下がるから、休耕し、作付面積を抑える。
- ・2018 年に減反政策は廃止され、米の生産量が増えることが期待されたが、経営所得安定対策交付金が継続され生産量は増えず、そのまま続く。
- ・若い就農者は、お米は儲からない。
- ・耕作を止めた土地が荒れ、戻すにはコストがかかる。

## 3). 農家の高齢化と後継者不足

- ・就農者平均年齢は 68 才以上(2024 現在)60 代後半～70 代が主力で、若手の新規就労者は僅かで、高齢化から体力・気力の限界により「急な増産」に対応できないのが現実です。
- ・家族経営や個人経営が多く高齢化、後継者がいない。

よって、耕作放棄地が増えて景観、害獣、地域の土地改良治水事業にも影響及ぼすなど、作りたくても作れない。

- ・こうした背景から、日本のコメ供給体制は非常に脆弱な構造になっていて、「需要の急増」や「不作」といった突発的な事態に

柔軟に対応しきれていない日本の姿を露呈していると思います。

## 3. インバウンド需要の急増

- 1).コロナ過が落ち着き、訪日外国人観光客が急増し、お米を使った寿司・おにぎり等の日本食の需要が加速し、業務用米の消費量が想定外に増加。更に異常気象による米不足による需要増加に加わり、供給側が追いつかず、米価格を押し上げることになりました。

## 4. 新米の価格高騰の背景

- 1).上記により米不足が 2023 年から始まり、2024 年産米買付には、JAは前年比2倍近くでも集荷不足が生じて、買取り業者もそれに上乗せての買取りで価格高騰し、他に農家から高値で直接お米を買集めがあり、更に競争が激化を招いた感があります。

## 2).政策上の不備

- ・政府の対応も問題視されています。

上記2. 1)でも指摘されていましたが、農水省は生産量が足りていると実際には、市場の実態量を把握は出来ていないようでした。

## ・備蓄米の放出

備蓄米の放出を開始したが入札後、流通が滞り改善を図るも、一般米の価格は、下がるには、至らなかったようです。

## 5. 今後の対応は、どうすべきか

1)「令和の米騒動」は、日本の稲作が危機的状況にあることを浮き彫りにしました。

2).農業従事者の激減と高齢化、異常気象、新たな病害虫の発生などが、日本の主食米の生産を脅かしている。

対応策の一つ、米余りの防止を目的とした生産調整を止めて、需要に対して余裕を持たせた生産に舵を切ることと思います。

## 3).個別の農業政策の見直し

- ①家族農業(少子高齢化)から農業法人化
- ②経営力と技術力を備えた人材育成

\*\*\*\*\*

特集記事の担当は飯野さんでした。

QRコードは 2025 年 4 月からの年間予定です

## 12月

12/02 WEB

12/09 定例会

12/16 WEB

12/23 定例会、PC フォーラム発行など

12/30 休み

## 2026 年 1 月

1/06 WEB

1/13 定例会 講座

1/20 WEB

1/28 定例会、PC フォーラム発行など

